

Combi

コンビ ベビーシート カブリオレ

取扱説明書

品質保証書付



E4

ECE R 44/03
03443301

お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。

裏表紙の品質保証書の欄に必要事項をご記入ください。

このベビーシートは、ヨーロッパ基準 ECE R44/03 を取得しています。

本書は、シートカバー後ろ側の収納ボックスに保管してください。(2ページ参照)

⚠ 危険

本製品は後向き専用です。

目次

お使いいただく前に	1
安全にお使いいただくために	1
各部のなまえ	2
本製品の3つの使いかた	3
アジャスターの使いかた	5
幌の使いかた	7
お子さまにあわせた各部の調節	8
インナークッションの使いかた	9
お子さまの乗せかた	10
幼児ベルトの高さ調節	12
幼児ベルトの長さ調節	15
各部の調節の完了チェック	16
ベビーシートとして使う	17
取り付けできない座席	17
安全にお使いいただくために	19
車への取り付けかた	24
シートベルトの種類と 取り付け上の注意点	25
取り付けの準備	26
座席への取り付けかた	27
取り付け時の完了チェック	30
こんなときには	31
ベビーキャリアとして使う	33
ロッキングチェアとして使う	34
お手入れのしかた	35
製品仕様	38
品質保証書	裏表紙

お使いいただく前に

お
使
い
た
だ
く
前
に

このたびは、コンビベビーシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ベビーシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。

ベビーシートが取り付けられるのは、3点式シートベルトの車です。

3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

体重：2.5kg以上～13kg未満のお子さま。

(参考月齢...新生児～15カ月ころ)

新生児とは、体重2.5kg以上かつ胎週数37週以上

身長：ベビーシートに乗せ、**頭頂部が本体から上に出ない**お子さま。

安全にお使いいただくために

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠️ 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠️ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠️ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

⚠️ 低月齢期間のご注意

長時間使用の禁止

長時間連続してのご使用は、お子さまの負担となります。1時間程度を目安に休憩をとるなどしてください。

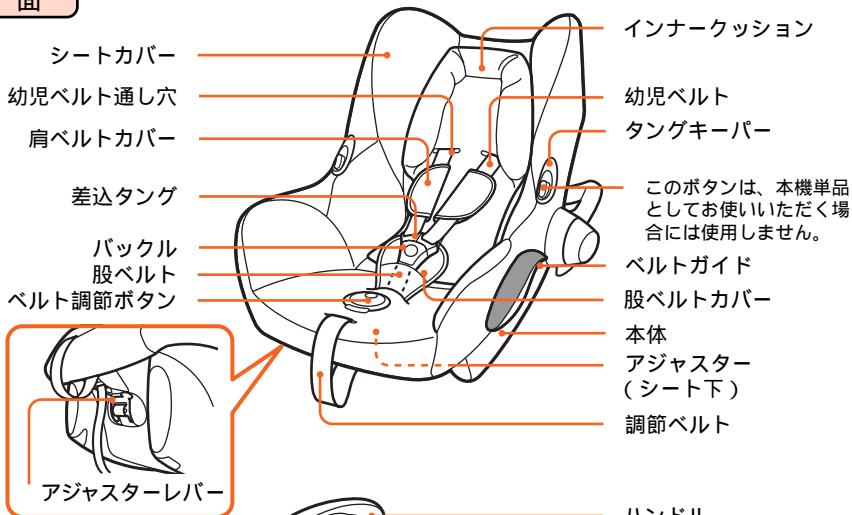
保護者の同乗（ベビーシートとして使用時）

できるだけ運転者以外に同乗者が乗り、お子さまから目を離さないでください。やむを得ず運転者以外に同乗者がいない場合は安全運転に留意し、休憩時などにお子さまの様子をご確認ください。

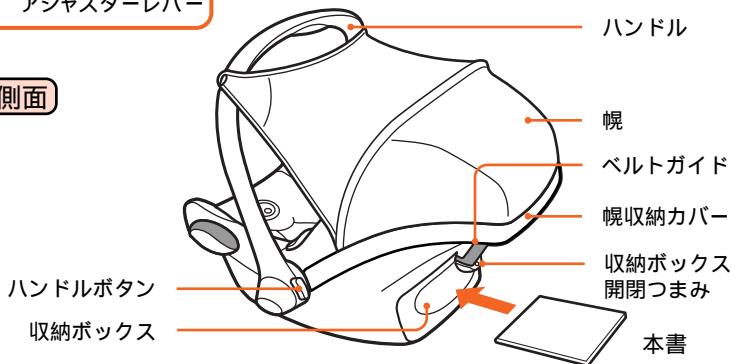
各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正面



裏面・側面



お
使
い
い
た
だ
く
前
に

本製品の3つの使いかた

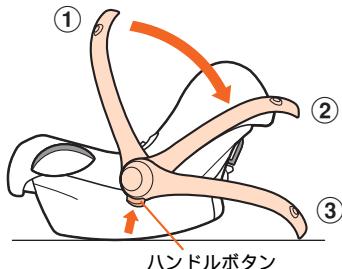
お使いいただく前に

ベビーシートを使用する前に、お子さまを乗せ、P1、P17～P18までの内容を確認してください。

このベビーシートは、次のようにハンドルの位置を変えることにより、3つの使いかたができます。

ハンドルの位置

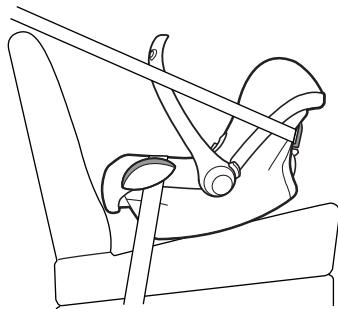
ハンドルは3段階で調節できます。
ハンドル両脇の2つのハンドルボタンを同時に押し、位置を調整します。



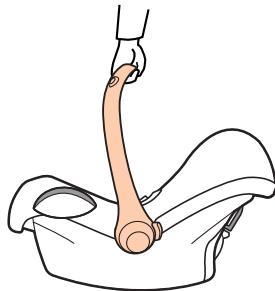
- ①ベビーシート/ベビーキャリアポジション
- ②ロッキングチェアポジション
- ③ロッキングチェア固定ポジション

ワンポイント  ハンドルが正しい位置になると、押し込まれたボタンが元に戻ります。

1 ベビーシートとして (P17-32参照)



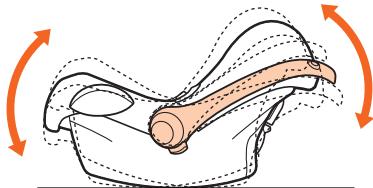
2 ベビーキャリアとして (P33参照)



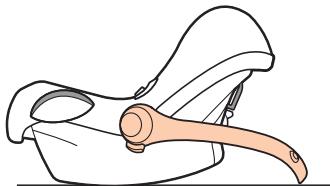
3

ロッキングチェアとして

(P 34 参照)



< ロッキングチェアポジション >



< ロッキングチェア固定ポジション >

△
注意

ロッキングチェアとして使用する場合も、必ず差込タンクをバックルに差し込んでください。

車内では、絶対にロッキングチェアとして使用しないでください。

不安定な場所では、ロッキングチェアとして使用しないでください。

アジャスターの使いかた

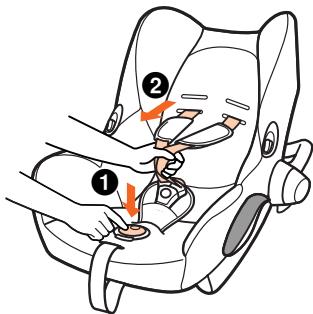
お使いいただく前に

アジャスターにより、お子さまのポジションを調節することができます。

5kg未満のお子さまの場合は、本体のシートカバーの下のアジャスターを一番上の位置に調整してください。

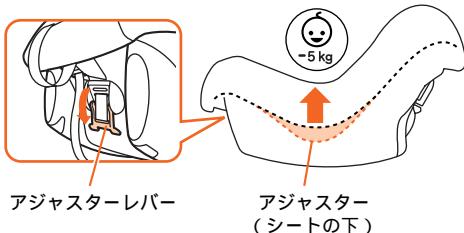
アジャスターの調節のしかた

- 1 **①** ベルト調節ボタンを押します。
- 2 **②** 幼児ベルトを手前に引き、ゆるめます。



- 2 **①** 体重5kg未満のお子さまの場合

本体前部のアジャスターレバーを下げ、シートカバーの下のアジャスターを図の位置にします。

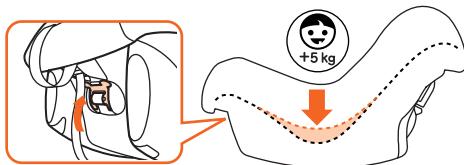


アジャスターレバー

アジャスター
(シートの下)

- 2 **②** 体重5kg以上のお子さまの場合

本体前部のアジャスターレバーを上げ、シートカバーの下のアジャスターを図の位置にします。



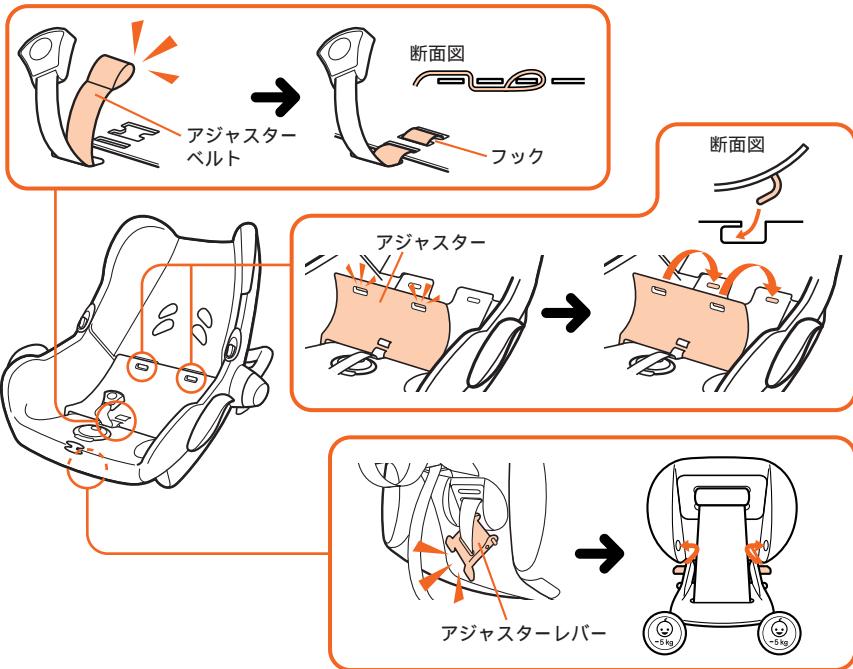
⚠ 注意

お子さまが成長して幼児ベルト通し穴の調節が必要になったら、アジャスターは下の位置で使用してください。

お子さまが成長して5kg以上(4ヵ月～5ヵ月)になりましたら、アジャスターは下の位置にしてください。

アジャスターやアジャスターレバーに無理な力がかかると、アジャスターベルトがはずれます。アジャスターレバー本体もはずれる場合があります。

アジャスターレバーを取り付けたり、アジャスターベルトの先端の輪をフックにかけて簡単に元に戻すことができます。



△注意

幌の使いかた

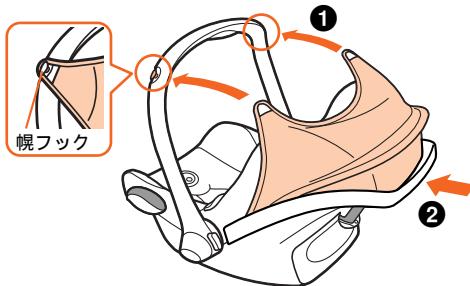
お使いいただく前に

幌は、お子さまを強い日射しから守ります。
幌は本体上部の幌収納カバー内に収納されています。

- ① ハンドルをベビーシート/ベビーカーリーポジションにします。
- ② 幌収納カバー後ろの幌ボタンを押します。
- ③ 幌収納カバーを手前に開きます。



- ② 幌を引き出して、幌の端のボタン穴をハンドル上の幌フックにかけます。
 - ② 幌収納カバーを閉じます。
- ... 幌をしまうときには、幌がはみ出さないように幌収納カバー内におさめ、『カチッ』と音がするまで閉めてください。



本体を持つときに幌収納カバーを握ることがありますので、幌の出し入れを行った後は、幌収納カバーがしっかりと閉じていることを確認してください。

お子さまにあわせた各部の調節

お子さまを乗せ、使用するベルト通し穴の位置をお子さまの体にあわせてください。



正しい幼児ベルト穴へセットしてください。

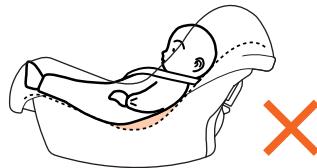
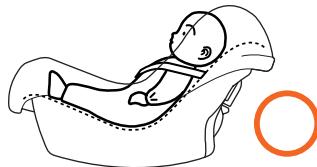
差込タングをバックルに差し込んでください。

股ベルトがお子さまの両足の間に通っている。

調節ベルトを引き幼児ベルトのたるみをとってください。

(お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入る程度の長さで調節してください。)

お子さまをベビーシートに深く座らせてください。



お子さまにあわせた各部の調節

おくるみなど、両足が分かれぬ衣類の着用はおやめください。



お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せない。
かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せない。

お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。



寝袋に入れたまま、乗せない。
ベビーウェアの中におもちゃなどを入れたまま、乗せない。

警告

インナークッションの使いかた

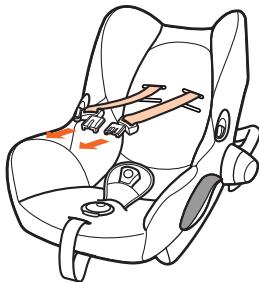
インナークッションは、低月齢のお子さまが、ベビーシートの中で正しい姿勢を保持するためのものです。

インナークッションの調節のしかた

お子さまの頭がインナークッションにつかえるようになったら、幼児ベルトの位置を調節してください。

① バックルボタンを押して差込タンクをはずし、幼児ベルトから肩ベルトカバーを引き抜きインナークッションを取りはずします。

② 「幼児ベルトの高さ調節（12ページ）をご覧ください。幼児ベルトを高い位置の幼児ベルトと通し穴に入れ替える。



③ ベビーシートにインナークッション取り付けて幼児ベルトを表側に引き出し、肩ベルトカバーを取り付ける。



インナークッションのはずしかた

幼児ベルトの高さを調節しても、お子さまの頭がつかえるようになったら、インナークッションをはずしてください。

① バックルボタンを押して差込タンクをはずし、幼児ベルトから肩ベルトカバーを引き抜きインナークッションを取りはずします。



⚠️注意

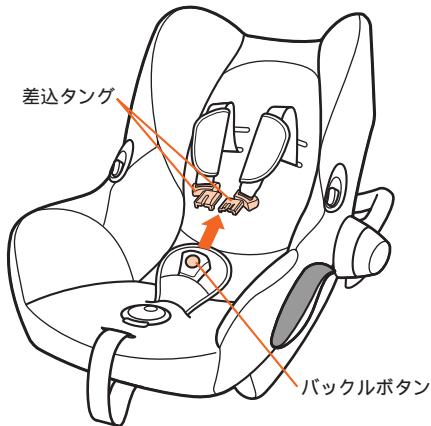
お子さまの頭がインナークッションにつかえて首が曲がったり、頭がインナークッションの上に乗ったまま使用しないでください。インナークッションを調節するか取りはずしてください。



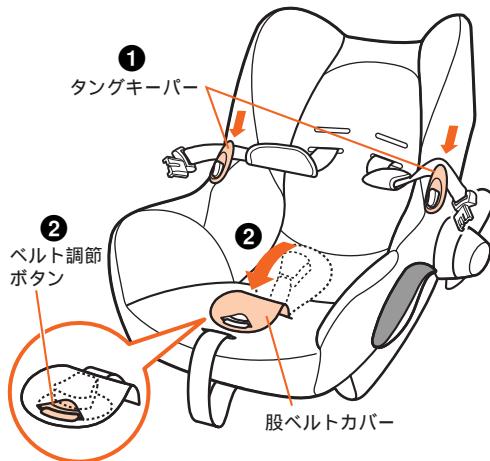
お子さまの乗せかた

次ページに続く

- 1** バックルボタンを押して差込タングを抜きます。



- 2** ① 幼児ベルトをゆるめ(15ページ参照) タングキーパーにはさみ込みます。
② 股ベルトカバーをベルト調節ボタンに引っ掛けてバックルをとめます。



お子さまにあわせた各部の調節

お子さまの乗せかた

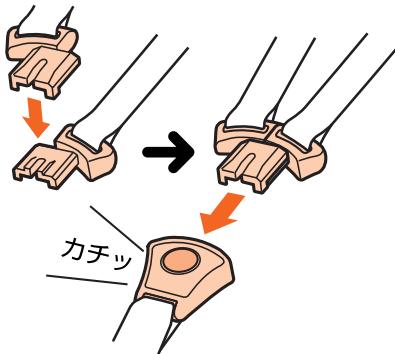
- 3** お子さまを乗せ、左右の幼児ベルトを肩からかけ、手順2でとめた股ベルトカバーをはずして、バックルを戻します。



- 4** 左右の差込タングを重ね合わせて、『カチッ』と音がするまで、バックルに差し込みます。

左右を重ね合わせ

差し込む



左右の幼児ベルトがねじれていないこと

幼児ベルトの高さ調節

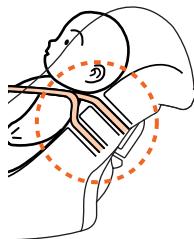
次ページに続く

- 5 調節ベルトを引き出して、左右の幼児ベルトがお子さまの体にフィットするように調節します。



幼児ベルト通し穴の高さの選びかた

幼児ベルトは、お子さまの肩の高さに一番近い位置に通してください。

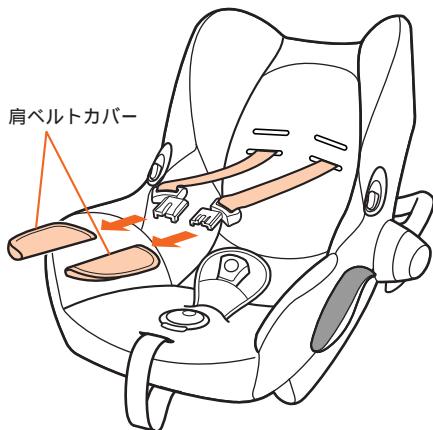


幼児ベルト通し穴の位置がお子さまの体にあっていないと、衝撃が加わったときに幼児ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。

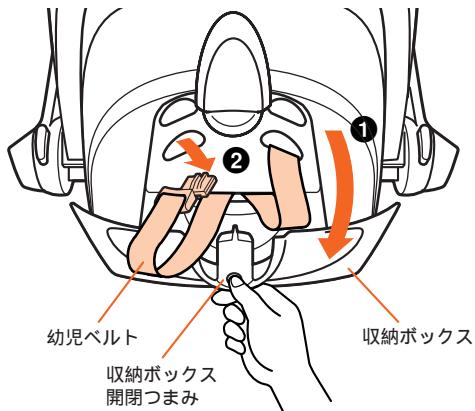
お子さまにあわせた各部の調節

幼児ベルトの高さ調節

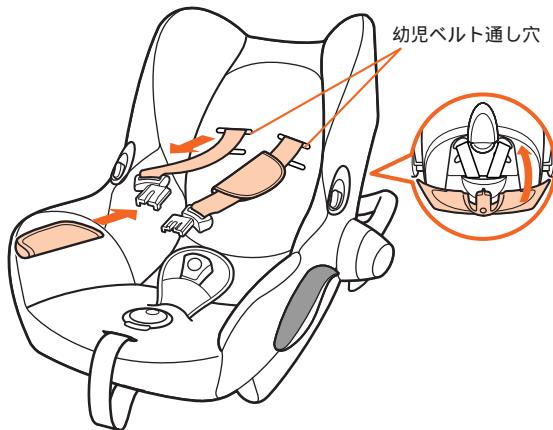
- 1** バックルボタンを押して差込タングをはずし、幼児ベルトから肩ベルトカバーを引き抜きます。



- 2** 収納ボックス開閉つまみを下に押し下げて収納ボックスを開け、本体裏側から幼児ベルトを引き抜きます。



- 3** 幼児ベルトを、お子さまの体にあった幼児ベルト通し穴に通します。肩ベルトカバーを通し、収納ボックスを閉じます。



- 4** お子さまを乗せ、差込タングをバックルに差し込み、肩ベルトの位置を確認します。



幼児ベルトの長さ調節

お子さまを乗せて、幼児ベルトがフィットするように長さを調節します。左右の幼児ベルトの長さが同じになるように調節してください。



必ずベルトの長さを調節してください。幼児ベルトにたるみがあると、衝突時などにお子さまが飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

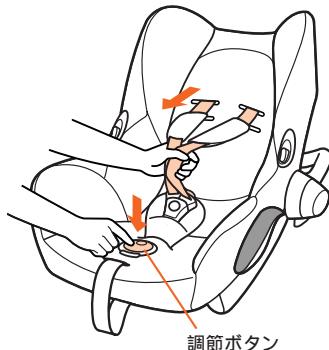
幼児ベルトを短くするには

調節ベルトを手前に引きます。



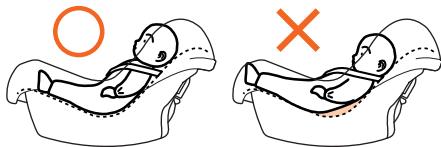
幼児ベルトを長くするには

カバーの下の調節ボタンを押しながら、幼児ベルトを手前に引きます。

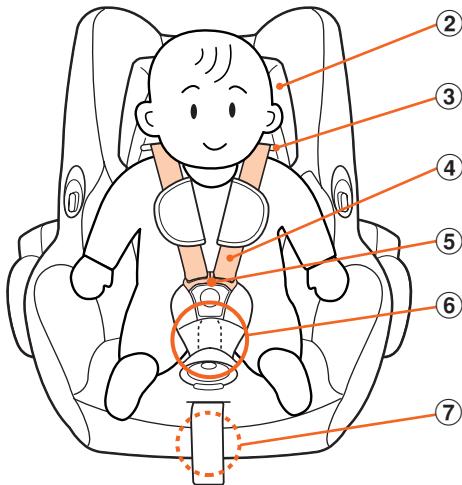


各部の調節の完了チェック

- ① お子さまがベビーシートに深く座っていること。



- ② インナークッションが正しく使われていること。
③ 正しい幼児ベルト通し穴にセットされていること。
④ 幼児ベルトにねじれやたるみのないこと。(お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入る程度の長さに調節してください。)
⑤ 差込タンクがバックルに差し込まれていること。
⑥ 股ベルトがお子さまの両足の間に通っていること。
⑦ アジャスターが正しい位置になっていること。



お子さまにあわせた各部の調節

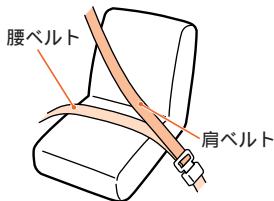
ベビーシートとして使う

ベビーシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。

ベビーシートが取り付けられるのは、3点式シートベルトの車です。

3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



取り付けできない座席

⚠️
危険

次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

シートベルトの付いていない座席。



シートベルトの長さが極端に短い座席。



2点式シートベルトの座席。



エアバッグ装備の座席。
...サイドエアバッグのみの場合には使用できません。



進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



パッシブシートベルトの付いた座席。

パッシブシートベルトとは...車の座席に座ってドアを開めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。(オートマチックシートベルト)



座面の奥行きが40cm未満の座席。



ベビーシートのベルトガイドの位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



シートベルトの取り付け幅が37cm未満の座席。



座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



極端なポケットシート。

...座面の中央が極端にへこんでいる座席。



ベビーシートは、前座席・後座席ともに取り付けられませんが、より安全な後座席への取り付けをおすすめします。また、前座席に取り付ける場合には、安全性を高めるため、車のシートを後ろにスライドさせての使用をおすすめします。

エアバッグのついている前座席には、絶対に取り付けしないでください。



左記以外の座席でも、ベビーシートをしっかりと固定できない場合には、使用しないでください。

安全にお使いいただくために

⚠ 危険

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

使用条件に**適合しない**
お子さま・座席では、
使用しないでください。



エアバッグが装着された
座席では、**使用しない**
でください。衝突時、
エアバッグの作動によ
り大きな衝撃を受け、
危険です。



...サイドエアバッグのみの
場合には使用できます。

安全のため、必ず**後向**
きに取り付けてくださ
い。前向きでは**絶対**
に**使用しない**でください。



シートベルトや座席の
条件により、**取扱説明**
書どおりにしっかりと
取り付けできないとき
は、他の座席に取り付
けてください。



車に取り付けるときは、
必ず**車のシートベルト**
で**固定**してください。
ひもなど、シートベルト
以外のもので固定しな
いでください。



左右の差込タンクをしっ
かりバックルに差し込
んでください。



警告

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

お子さまを車内に1人で放置しないでください。日ざしの強い日などには、車内の温度も高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。



また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。

幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。



衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けた場合は、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。



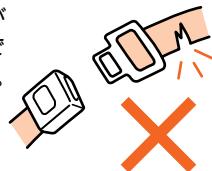
幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合わせください。



お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。



車のシートベルトに傷がある場合は、その座席では使用しないでください。



⚠ 警告

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

車の前座席に、ベビーシートを取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



バックルにゴミなどが詰まって確実に差し込めない場合は、修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合せください。

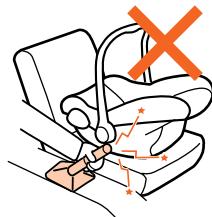


次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

お子さまをベビーシートに乗せていないときでも、シートベルトで固定しておいてください。車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



シフトレバーやパーキングブレーキなどの操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。



2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、助手席に取り付けしないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



⚠ 注意

直接日光が当たると、本体や差込タンクなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。



走行中は、ベビーシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがベビーシートを操作しないようにしてください。



ベビーシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



風雨にさらさないでください。



車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、取り付けないでください。しっかり固定されません。



固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たるおそれがあります。



シートカバーなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材ははずしたまま使用しないでください。また、本製品以外の物と取り換えたりしないでください。(衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります)



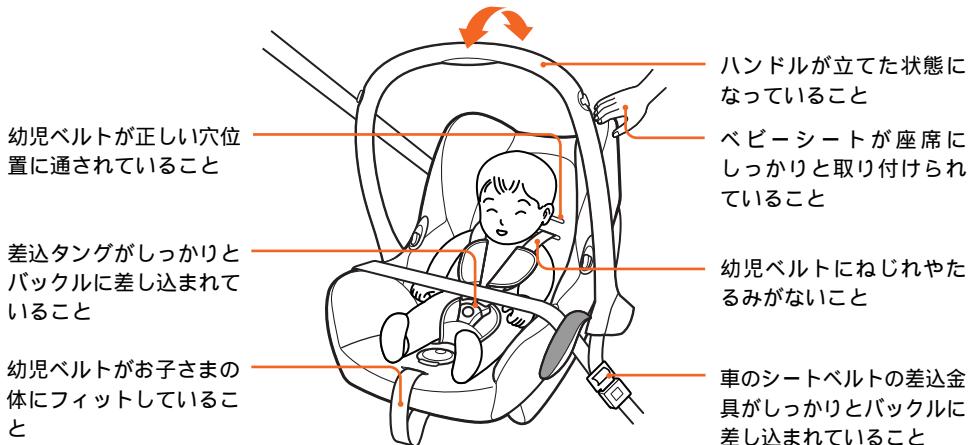
本製品を車のシート可動部やドアなどに挟まないように十分注意してください。



車への乗せ降ろしの際には、ボンネットの上など、不安定で高い場所には置かないでください。

⚠️ 日常の点検

ベビーシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。



⚠️ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタン(赤色)を押し、幼児ベルトをはずして、お子さまを車外に脱出させてください。



車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類、取り付け上のご注意、および取り付けかたを説明しています。

車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは17～18ページを参照してください。



危険

必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

ベビーシートがしっかりと取り付けできない場合は、本来の機能を果たさず危険ですので、他の座席に取り付けてください。

車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

エアバッグが装着された座席では、ベビーシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。

サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



警告

車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。

助手席にベビーシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。

お子さまが乗っていないときでも、ベビーシートは必ずシートベルトで固定してください。

シフトレバーやサイドブレーキなどの操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。

2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にベビーシートを取り付けしないでください。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

ベビーシートは、シートベルトの種類により取り付けかたが異なります。下表をご覧ください。ご使用の車のシートベルトの種類をご確認ください。下表ではわからない場合には、車の取扱説明書をご覧ください。



必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

車のシートベルトの種類 (シートベルトの方式)	特徴 (見分け方)	取り付け上の注意点	取り付けの可否
ELR 緊急ロック式巻取装置付き	ゆっくりと引くとベルトが自由に伸び縮みし、勢いよく引くとロックする。	ゆっくりとシートベルトを引き出して取り付けてください。	○
ALR/ELR チャイルドシート固定機能付き	ベルトをすべて引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	シートベルトをすべて引き出すと危険です。シートベルトを一度戻して、チャイルドシート固定機能は解除して取り付けてください。	○
NR マニュアル式	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	ベビーシートにあわせてシートベルトの長さを調節して取り付けてください。	○
NLR 非ロック式巻取装置付き	ロック機能のない巻取装置付きシートベルト。		○
ALR 自動ロック式巻取装置付き	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	使用できません。	×

ベビーシートとして使う

3点式シートベルトとは
図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



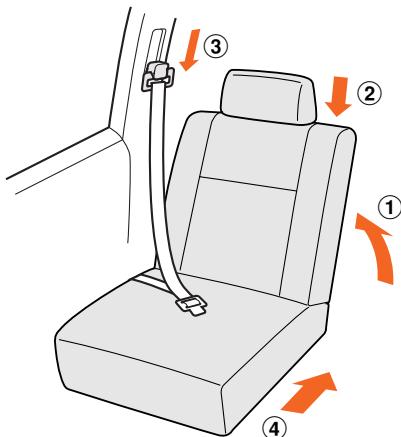
2点式シートベルトとは
図のように、腰ベルトの左右2点で体を支えるシートベルトのこと。
(2点式シートベルトには取り付けられません)



取り付けの準備

車側の準備

- ① 背もたれを、 10° ~ 30° の角度にしてください。
- ② 高さ調節できるヘッドレストは、一番下まで下げてください。
- ③ 引き出し位置を調節できるシートベルトは、一番低い位置にしてください。
- ④ 前座席に取り付ける場合は、座席を一番後ろまで下げてください。



ベビーシートの準備

ベビーシートのハンドルを立てた状態にしてください。

このベビーシートは、必ず後向きに取り付けます。絶対に前向きでは使用しないでください。

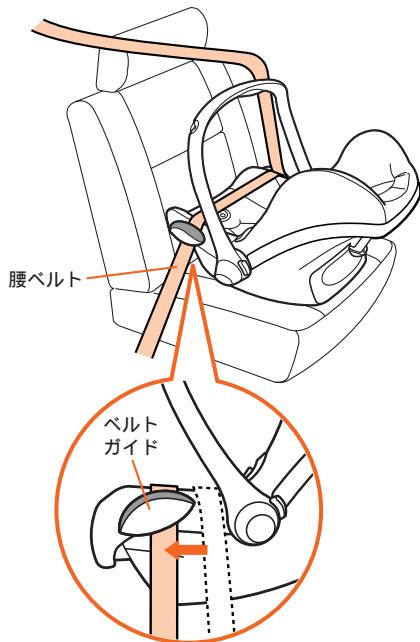
車の取り付ける座席に、ベビーシートの底面をしっかりとつけて、座席の最も奥の位置に置いてください。



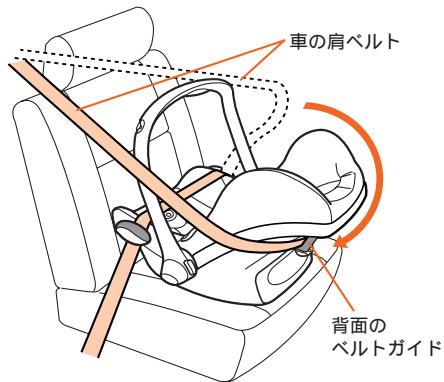
ベビーシートとして使う

座席への取り付けかた

- 1** 車のシートベルトを引き出し、腰ベルトを、ベビーシート両サイドのベルトガイドにはさみ込みます。

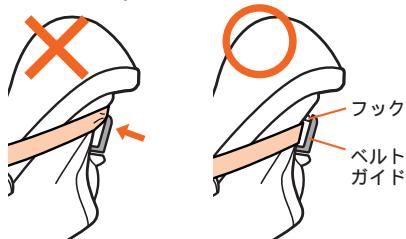


- 2** 車の肩ベルトを、ベビーシート背面のベルトガイドにはさみ込みます。



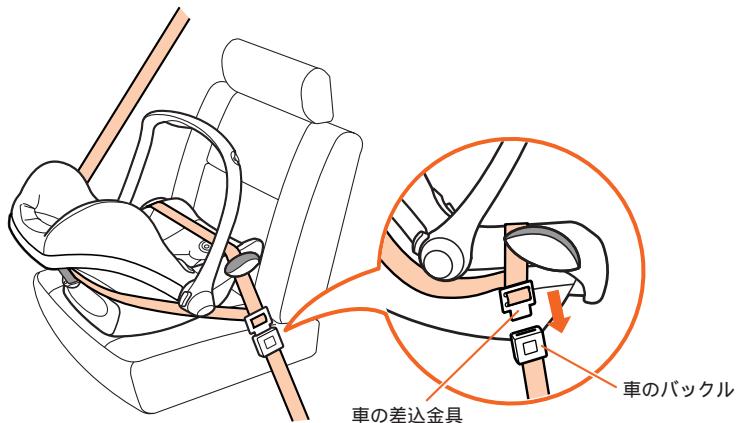
⚠ 警告

肩ベルトが、ベルトガイドのフックより下にしっかりはさみ込まれていることを確認してください。



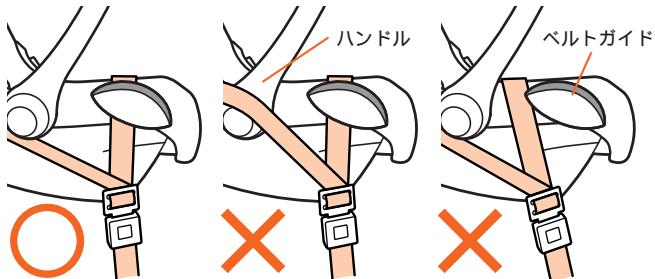
ワンポイント  ベルトガイドは両サイドと背面の青色部、3カ所です。

3 車の差込金具をバックルに差し込みます。



⚠ 警告

肩ベルトがハンドルの根元にかからないこと、腰ベルトが両サイドのベルトガイドにはさみ込まれていることを確認してください。



座席への取り付けかた

- 4 ベビーシートに**体重をかけて押し込み**ながら、車の肩ベルトを矢印の方向に引き、たるみをなくします。



警告

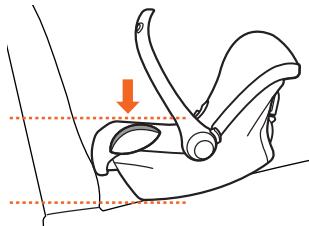
車のシートベルトが青いベルトガイド(3カ所)を通っていることをもう一度確かめてください。

ベビーシートを寝かせすぎると、急ブレーキや衝突時にお子さまがベビーシートから飛び出すおそれがあります。

ツボポイント

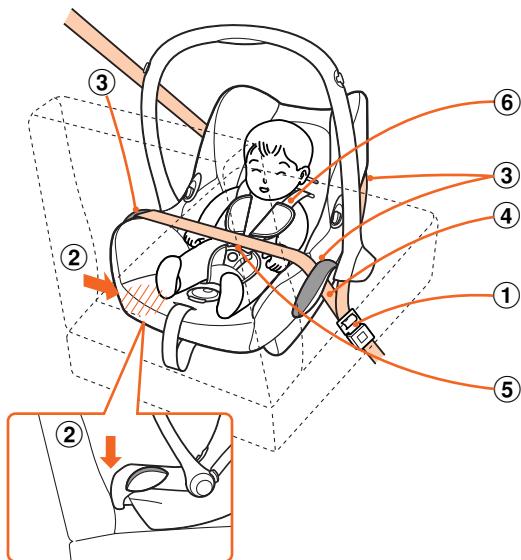


目安として、足側本体上部が車の座席と水平になるくらいに取り付けてください。



取り付け時の完了チェック

取り付けが終わったら、ベビーシートがしっかり取り付けられているか、次のことを確認してください。



- ① 車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ② 車の背もたれとベビーシートの先端の接している部分に、すきまがないこと。
- ③ 車のシートベルトが、青色の3つのベルトガイドに正しくはさみ込まれていること。
- ④ お子さまを乗せた状態で、車のシートベルトにゆるみのないこと。
- ⑤ ベビーシートの差込タングがしっかりバックルに差し込まれていること。
- ⑥ 幼児ベルトの調節が正しくされていること。
(15ページを参照)

ベビーキャリアとしてご使用の場合

お子さまを乗せたままでも、車への取り付け、取りはずしが可能です。



これらの項目を確認し、しっかり取り付けできない場合は再調節してください。それでもしっかり取り付けできない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

こんなときには

ベビーシートを、より確実に固定する方法

後座席に取り付けた場合

車の前座席を後ろにスライドさせ、ベビーシート
の背面に接するようにしてください。より確実に
固定できます。

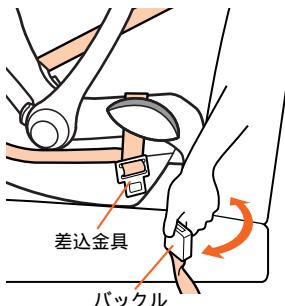


エアバッグが装着された座席では使用し
ないでください。エアバッグの作動によ
る衝撃で、危険な状況になります。(装
備されているのがサイドエアバッグのみ
の場合には使用できます)

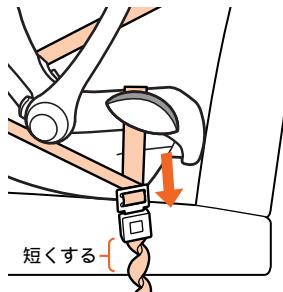
差込金具が、ベルトガイドに当たり、不安定な場合

差込金具がベルトガイドに当たり、しっかり取り付けできない場合は、図のように対応して
てください。

1 差込金具をはずしてバックルを持ち、バックル側のベルトに1~3回ひねりを加えて短くします。



2 もう1度差込金具をバックルに差し込み、固定します。



ひねりを加えても
しっかり取り付け
られない場合は、使用
しないでください。
本来の機能を果たさ
ず、危険をまねくお
それがあります。

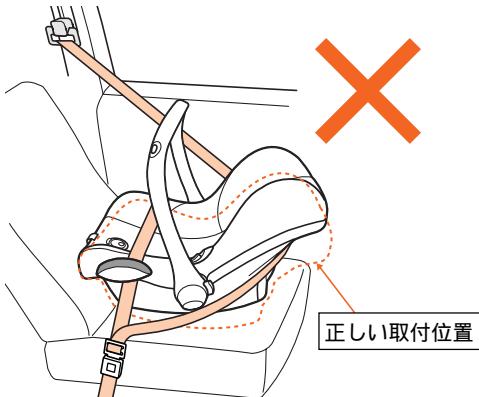
フリップ



ひねりを加えて取り付けしたあ
とに、ベルトがベルトガイドか
らはずれやすくなった場合は、
バックルを反対側にひねって取
り付けしてください。
1~3回ひねりを加えてもベル
トガイドに当たる場合は、当社
専用のフィットマット(別売)を
ご使用ください。

ALRが作動し、ベビーシートを正しい位置に取り付けできなくなった場合

A/ELR付きシートベルトで、取り付け作業時にALRが作動し、ベビーシートが正しい位置に取り付けできなくなった場合は、以下のように対応してください。



ALR機能を解除する

- ① いったん作業を中止し、バックルをはずします。
- ② シートベルトをすべて巻き戻し、ALR機能を解除します。

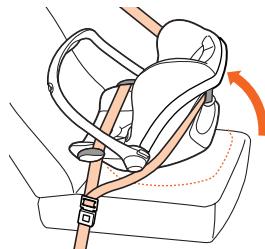
再度、取り付ける

もう一度、最初から取り付け作業をやり直してください。

ポイント



ALRが作動してしまう場合は、ベビーシートを横にしたり、立てた状態でALRが作動しないようにシートベルトを回して取り付けてください。



ベビーシートとして使う



注意

お子さまを乗せたまま作業を行わないでください。

ベビーキャリーとして使う

お子さまの乗せかた、幼児ベルトの高さ調節のしかた、幼児ベルトの長さの調節のしかたは、P8～15を参照してください。

⚠ 警告

お子さまを乗せるときは、必ず幼児ベルトの**差込タングとバックルを固定**してください。

ハンドルを肩にかけて持ち運ばないでください。お子さまを転落させたり、運んでいる方が転倒して、けがの原因となります。



階段、段差、坂道など、段差のある場所で**ぶつけないように十分注意**してください。お子さまを転落させたり、運んでいる方が転倒して、けがの原因となります。



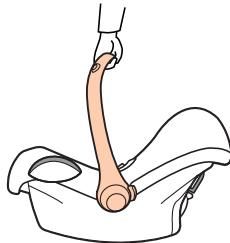
ベビーシートを、テーブルやいすの上など、落ちる危険性がある場所に置かないでください。転倒してけがの原因となります。



ハンドルをキャリーポジションにすると、お子さまをベビーシートに乗せたまま移動することができます。

持ち方①

ハンドルを握ってもつ



持ち方②

ハンドルをわきにかけ、もう一方の手で本体をつかむ。



⚠ 警告

ハンドルがわきからすべり落ちる可能性がありますので、必ずもう一方の手で本体をつかんでください。ハンドルがキャリーポジションで固定されていることを確認してください。

ロッキングチェアとして使う

お子さまの乗せかた、幼児ベルトの高さ調節のしかた、幼児ベルトの長さの調節のしかたは、P8～15を参照してください。

⚠ 警告

次のような使いかたは、ベビーシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

必ず、保護者の目の届く場所で使用してください。お子さまを乗せるときは、必ず幼児ベルトの**差込タンクとバックルを固定**し、ベルトにたるみがないように調節してください。

車内では、ロッキングチェアとしての使用はおやめください。

テーブルやイスの上など落ちる危険性がある場所や階段・段差・傾斜のある所、またタイヤなどすべりやすい場所での使用はおやめください。転倒してけがの原因となります。



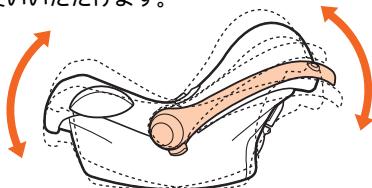
ストーブの近くや、落下物の心配のある場所での使用はおやめください。

2人以上のお子さまを乗せないでください。

お子さまの乗せ降ろしは、必ず保護者の方が行ってください。

首がすわるまでロッキングは使わないでください。お子さまの足が床に着く場合は、ご使用をおやめください。

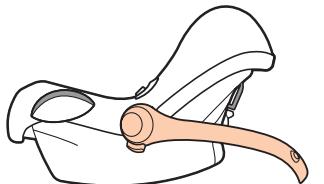
ハンドルをロッキングチェアポジションにして、手で軽く押してください。ベビーシートがロッキングします。また、ハンドルを固定ポジションにするとロッキングしませんので、チェアとしてお使いいただけます。



<ロッキングチェアポジション>

⚠ 警告

お子さまの様子を見ながら押してください。
長時間のご使用はおやめください。



<ロッキングチェア固定ポジション>

⚠ 注意

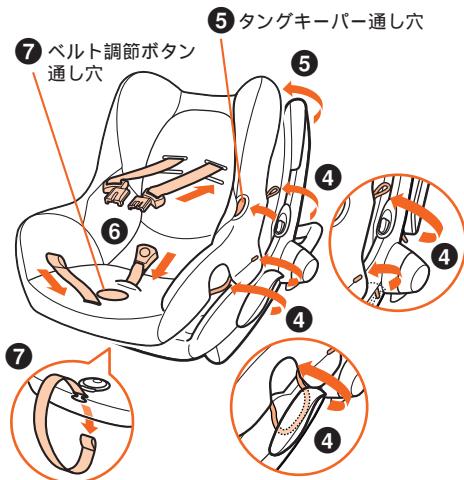
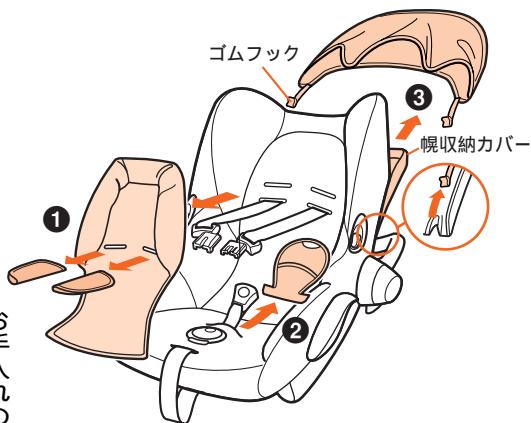
フローリングなどの硬い床面では、「ガタガタ」と音がすることがあります。

ロッキングチェアとして使う

お手入れのしかた

シートカバーのはずしかた

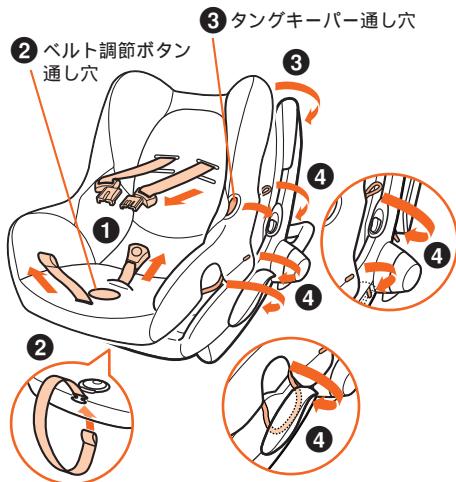
- ① バックルボタンを押して差込タンクをはずし、肩ベルトカバー、インナークッションを引き抜きます。
- ② 股ベルトから、股ベルトカバーを引き抜きます。
- ③ 背面の幌収納カバー端部から幌のゴムフック(2カ所)をはずし、幌を引き抜きます。
- ④ シートカバーのフック(4カ所)をはずし、ベルトガイドにかけられているゴムをはずします。
- ⑤ シートカバーを背もたれとタングキーパーからはずします。
- ⑥ 幼児ベルト、股ベルトをシートカバーから引き抜きます。
- ⑦ 調節ベルトを本体のフックからはずし、シートカバーから引き抜きます。ベルト調節ボタンを通し穴からはずします。



背もたれのカバーの付けはずしは多少かたいたい場合がありますので、指などをささないようにしてください。

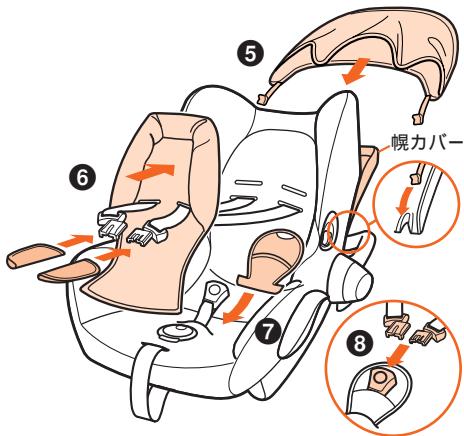
シートカバーの取り付けかた

- ① 幼児ベルトと股ベルトをシートカバーに通します。
- ② 調節ベルトをシートカバーに通し、本体のフックにかけ、ベルト調節ボタンを通し穴から出します。
- ③ 背もたれにシートカバーをかけ、タングキーパーをシートカバーに通します。
- ⑦ シートカバーのフック(4カ所)をかけ、ベルトガイドにゴムを引っかけてとめます。



- ⑤ 幌のゴムフック(2カ所)を、幌収納カバーの端部につけます。
- ⑥ 幼児ベルトをインナークッションに通し、肩ベルトカバーを通します。
- ⑦ 股ベルトに、股ベルトカバーをかぶせます。
- ⑧ 左右の差込タングを組み合わせるバックルに差し込みます。

調節ボタンを押しながら調節ベルトを引いて、左右の幼児ベルトが調節できることを確認します。



お手入れのしかた

シートカバー、インナークッション、肩ベルトカバー、股ベルトカバー、幌の洗いかた

洗濯時は次のことを守ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	幌以外は、アイロン掛けはしないでください。
	幌は低温でアイロン掛けしてください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。

蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。インナークッションを洗濯する場合は、スポンジを抜いてください。

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、本体後ろ側の収納ボックスに保管してください。

本体

長期間使用しないときは、車から降りし風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

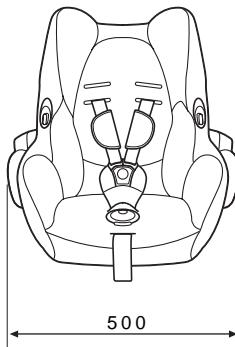
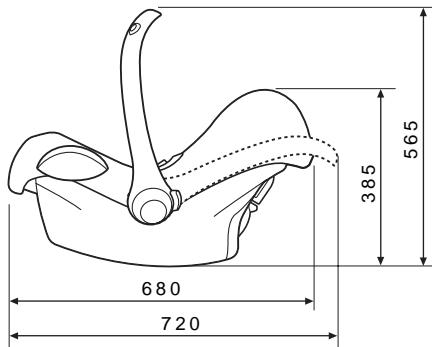
廃棄方法

お住まいの各自治体の規定にしたがい処分、廃棄してください。

衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。事故により処分する場合は、本製品が再利用されないように縫製品などをはずして、廃棄してください。

製品仕様

製品サイズ (単位：mm)



製品重量 : 3.3kg

主な材質 : 本体...ポリプロピレン、ポリスチレン
シートカバー

表生地...ポリエステル、綿

クッション材...発泡材